

日本評論社

No.KD0786
2024年10月

クラシック30%引きセール

日本評論社のKinoDen搭載タイトルのうち、375タイトルを**30%引き**でご提供します
雑誌「日本評論」のバックナンバーなど、戦前戦後の日本の知識のアーカイブが満載です



雑誌「日本評論」

総合雑誌「日本評論」は、前身の「経済往来」を引き継いで、1935(昭和10)年から刊行された。創刊時から500ページを超える大雑誌で、「中央公論」「改造」に比肩する総合雑誌となった。言論の自由が国家によって制限されていくなか、さまざまな工夫を施し、読者に多くの情報提供を行った。当時の社会状況、またそれに対峙する学者やジャーナリストたちの情熱と限界を窺い知ることができる貴重な資料である。

分売可

同時アクセス1 : 1,617円～

同時アクセス3 : 2,425円～ (いずれも本体価)



キャンペーン期間 2024年10月1日から2025年3月31日まで

タイトルリストはこちら



https://kinoden.kinokuniya.co.jp/product/img/KD0786_list.xlsx

- 上記キャンペーン期間中、リスト記載のタイトルを30%引きでご提供いたします
- タイトルリストの価格は、30%引きとなった価格です
- 一部海外販売不可のタイトルがありますのでご注意ください
- 販売対象機関：すべて



明治文化全集 全28巻+別巻1

この全集は、吉野作造・尾佐竹猛・石井研堂・宮武外骨その他の諸先覚が、大正13年におこした明治文化研究会の編集したもので、まさに明治の「群書類従」とも称すべき明治文化の研究には不可欠な史料文献である。

分売可

同時アクセス1：15,400円～

同時アクセス3：23,100円～

(本体価)



現代法学全集 全39巻

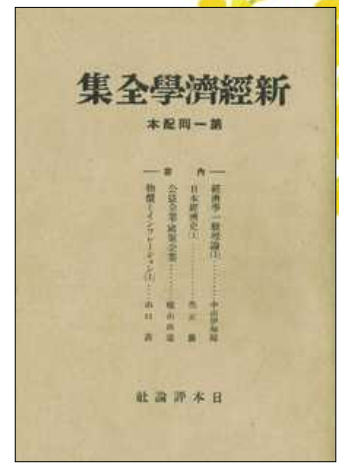
編集代表である末弘厳太郎(東大法学部教授)の学問、法律、社会に対する思想の集約的結実といえる企画。「法律の社会化」「法科大学の開放」というスローガンを掲げ、1928(昭和3)～1931(昭和6)年に全39巻を刊行した。

分売可

同時アクセス1：6,930円～

同時アクセス3：10,395円～

(本体価)



新経済学全集 全20巻

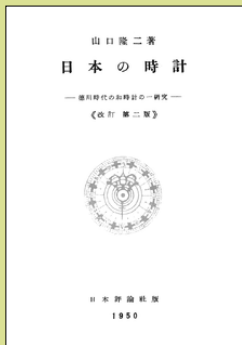
編集責任者は東畑精一(東大農学部教授)、中山伊知郎(東商大教授)。1939(昭和14)～1945(昭和20)年、20回にわたって配本。当初全32巻の予定だったが、戦争の激化に伴い、1945年3月の第20回配本をもって刊行中止となった(未完)。

分売可

同時アクセス1：5,390円～

同時アクセス3：8,085円～

(本体価)



日本の時計 徳川時代の和時計の一研究

不定時法が採用されていた江戸時代、それを表示可能な機械式時計として独特の発達をした「和時計」について、多数の写真とともにその機構を解説した。併せて日本の時計産業上の位置付けについて述べている。

同時アクセス1：10,934円

同時アクセス3：16,401円

(本体価)



法哲学概論

著者は、著名な法哲学者である。1935年に日本評論社から出版された著者の『法哲学』は、1937年に改訂版が出版され、それらをベースに構成、内容を充実させたものが本書である。

同時アクセス1：10,010円

同時アクセス3：15,015円

(本体価)



日本資本主義と国有鉄道

島恭彦(1910-1995)は財政学の研究者であるが、官業論の一部として取り組んだ国鉄の問題に関心を引き付けられ、その研究に一時没頭し、その成果を本書にまとめた。

同時アクセス1：6,699円

同時アクセス3：10,048円

(本体価)



物理実験

東大の「前期学習実験」のテキストとして編纂された。当時の理工系学生がどのような実験学習をしていたかが分かる。

同時アクセス1：5,775円

同時アクセス3：8,662円

(本体価)

対象タイトルの詳細は
こちらのタイトルリストから

https://kinoden.kinokuniya.co.jp/product/img/KD0786_list.xlsx

